

# 英語科 学習指導案

日時 平成16年10月6日(水) 5校時  
学級 1年A組(男子16名 女子17名 計33名)  
指導者 小綿 裕幸 T1  
高村 将教 T2

1 単元(題材)名 Speaking Plus 4 一日の生活 - 生活パターンを話す  
(東京書籍 NEW HORIZON ENGLISH COURSE Book 1)

## 2 単元について

### (1) 教材観

本題材は、Unit7で学習したWhat time ~?を復習として扱うとともに、話題を学校生活から朝起きてから寝るまでの、1日の生活の基本パターンを表現することに設定している。

「一日の生活」という設定は、自己表現の基本的な内容、題材であり、身近で簡単なことについて話すことができ、英語で話す(聞く)ことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて話す(聞く)ことができるようにするといった英語科の目標に沿った適切かつ欠くことのできないものととらえられる。

本題材に取り組むことで、英語を用いて積極的に表現したり活動していく姿勢とコミュニケーションの基礎となる英語の各領域の基本的な力をいっそう伸ばしていけるようにしたい。

### (2) 生徒観

定期(単元)テストや普段の反応・取り組みの様子から見ると、教師の指示や説明、学習内容の理解力が劣る生徒が若干いるものの、全体としては学習姿勢や理解力はおおむね良い。問いかけに対する反応や発言、また挨拶や発話、音読時の声量はやや不十分な印象もあるが、周りを意識する気持ちが影響しているものと思われ、根気強く指導しながら活発にしていきたい。

学習(活動)内容が明確に理解でき、興味を関心を引く題材であると、大変活発にペアワークやコミュニケーション活動に取り組む。また、協力し合い学級全員で学習する環境が整っており、諸活動が行いやすい。家庭学習やリピート学習においても個人差は見られるが、積極的に取り組んでいる。

一方、学習が進むにつれ、問題を解くことや単語・文を書くこと等において定着度に関きが見えてきている。そのようなことが要因となり学習意欲を低下させないように努めていきたい。そのためにも元気で生き生きした雰囲気を引き出し、多くの量を練習させることで、まず「教科書を自分で読める」ようにさせたい。そして「読めて意味がわかる内容を積極的に繰り返して言う(書く)練習をする」ようにさせ、基本の定着を図り、かつ苦手な生徒を支援、補充していきたい。

そのようにして、外国語科の目標とする「外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う」ことに迫りたい。

### (3) 指導観

本題材の「一日の生活」は、自己表現の基本的な内容で、コミュニケーション活動において有用かつ重要な項目であるので、日常的に、また主体的に使用・発話していけるようにしたい。そのためにも、コミュニケーション能力の素地を築く意味での音読に力をいれ、さらにペア(班)での、またT1、T2や友だちを相手としたActivitiesを加え、自然に、かつ十分に基本表現になじませたい。

モデル対話(基本句、表現)を理解する段階では、多様な音読活動を取り入れ、十分表現になじませたい。また、T1、T2のモデル提示で2人での問答や具体的なアナザー・バージョンを示し、表現や内容の理解を深めさせながら、自分自身の「一日の生活」の内容をより理解させたい。

次に、自分自身の「一日の生活」を練習、発表する場面と、お互いに「一日の生活」について問答する場面、また聞き取った内容を第三者的な表現で整理する場面を設けて、段階的、総合的に基本の定着を図りたい。

また今回は、TTの働きとしては、内容理解やモデル提示で生徒の意識、集中を高めさせることや発話練習時の効率化、またペア(班)活動の際の助言・指導で生かされるように工夫を図りたい。

### (4) 教科における最終的な願いに対する指導観

日々の授業では授業者が「英語をどのように教えるか」という以上に、授業者自ら「英語をどのよ

うに学ばばよいか」を考え模索しながら、生徒とともに学んでいきたいと願っている。生活上では実際に英語を使用する機会が少ない環境の中で、また、すでに母語である日本語の理解・認識が形成しつつある中学生段階から学び始めるという状況の中で、「外国語を学ぶ」ということはどういうことなのかを考え、示していきたい。そこから、「週3回の授業でできること/すべきこと」は何なのかを考えていくと、「会話をさせる/会話をしているように見せる」的な発想よりも、「英語（の学習）を受け入れ、発話できるための素地作り」が重要であるように思う。

そう考えると、英語の授業は単に知識として積み重ねていくものではなく、音読を中心とした「地道な基礎トレーニング」をしていくこと最も重要であると思われる。「入力なくして出力もなし」、「入力しても、出やすくする訓練をしないと出てこない」と言う発想で音読に励み、意味をイメージして英語表現が無意識に口から出てくるような状態を目指していきたい。

その単純で地味な音読活動の意義をいかに理解させ徹底させられるかは常に課題となっているが、ある意味では英語も「実技教科」としてとらえ「徹底した反復練習なくしては定着や向上は望めない」ということを伝え、それを理解・実行していける姿勢を養わせたい。それが以後の学校での英語学習の継続、または生徒自らがさらに上のレベルの英語学習を志した際に生かされていくように、生徒の中に財産として残してやりたい。そして英語学習を「教科の勉強」というよりも、個々の生徒の考えや力量、希望・理想に応じて、「課題解決力の向上」や「自己実現」のための手段として理解、活用してもらいたいと願っている。

本題材においても、基本的な表現を理解し発話できるようになるための活動を通して、自己表現の能力や幅を豊かにさせるとともに、生徒各々の英語の「学習能力」を高めさせたい。

### 3 単元（題材）の目標

#### 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

学んだ表現、語句を使って、進んで自己表現をし、また相手の話に興味を持つことができる。

#### 【表現の能力】

一日の生活パターンについて話したり、お互いに問答することができる。

#### 【理解の能力】

一日の生活パターンを表す表現や語句を理解し、慣れ親しむことができる。

#### 【言語や文化についての知識・理解】

一日の生活パターンを表す英文の分構造についての知識があり、また理解することができる。

### 4 単元（題材）の指導計画と評価規準

時	指導目標	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
1	一日の生活パターンを表す表現や語句を理解し、慣れ親しむことができる。	【聞くこと】			
		絵などを参考に意味を推測して聞き続けようとする。		意味を推測して、表現に慣れ親しんでいる。	
		【話すこと】			
		言語活動において、自ら学んだ表現を使っている。			文構造についての知識がある。
		【読むこと】			
			正しいイントネーション、区切り、等を用いて音読することができる。	音読を繰り返し、表現に慣れ親しんでいる。	
【書くこと】					
	言語活動において、自ら学んだ表現を使っている。	文法にしたがって、正しく書くことができる。			
		【聞くこと】			
		相手を見たり、うなづいたりして相手		慣れ親しんだ表現を相手の話を通して	

2 (本時)	一日の生活パターンについて話したり、お互いに問答することができる。	の話に興味を持っている。		聞き、理解を深めている。	
		[話すこと]			
		言語活動において、自分の一日の生活についての原稿を完成させることができる。	話そうとすることを聞き手の正確に伝えることができる。聞かれたことに対して適切に回答することができる。	慣れ親しんだ表現 自分自身の表現を話すことに使い、理解を深めている。	
		[読むこと]			
			適切な音量、スピードで、また意味をイメージして音読することができる。		
[書くこと]					
	表現できない所があっても、友だちと協力するなどして書き進めている。	内容を理解して必要な分量を書くことができる。		人の習慣やもの見方について理解しようとしている。	

## 5 本時の指導

### (1) 目標

一日の生活パターンについて話したり、お互いに問答することができる。

### (2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

観 点	評価規準	具体的評価規準		
		A(十分満足できる)	B(おおむね満足できる)	Cと判断される生徒への支援
表現の能力 [話すこと]	一日の生活パターンについて話したり、お互いに問答することができる。	ペアや一斉での問答でハンドアウトにほとんど頼らずに、はっきりとした口調で自分の表現を正確に話したり、友達と問答をしている。	ペアや一斉での問答でハンドアウトを参考にしながらも、相手に伝わる口調、声量で、自分の表現を話したり、友達と問答をしている。	語句や表現(文)の意味、発音の仕方やハンドアウトの着目する所や参考の仕方、問答の取り組み方等を再度指導し、援助する。

### (3) 指導の構想

最初にT1、T2でPCを示しながらモデル文を聞かせ、前時の学習を想起させる。

次に、前時に学習した「一日の生活」の基本的な表現と語句(モデル文)に十分になじむような復習・ウォームアップを行う。その際に、T1、T2役割を明確にした上で多様な音読方法を取り入れ、注目させ生徒の集中が途切れないように気をつけながら多く発話させたい。

次に学習課題を提示し、自分自身の「一日の生活パターン」を確認したり練習させる。個人で練習した後には、ペアで相手が言った表現文を主語をYouに置き換えて反復するようにさせたり、相手の生活について問答させる。さらに、学級全員で互いに質問をして歩かせ、友だちの「一日の生活パターン」の情報を聞き集めさせる。時間内で様々な人と会話をさせることで、質問、応答の練習をさせると同時に仲間との交流を図らせたい。「自ら学び、自ら考える」ためにもパートナーの取り組みにも注意を払いながら、「ともに協力して学び合う」姿勢を持たせたい。

まとめでは、聞き取った「友達の一日の生活の情報」を発表させ、それを確認したり、復唱することでまとめ、整理としたい。そして、「一日の生活」の基本的な表現を文字に頼らずにだいたい暗唱できるかどうかで定着の具合を確かめたい。

本時はJTE同士のT・Tであるが、特に復習・ウォームアップの段階で生徒の意識、集中を高めさせることに生かしたい。また、発話練習時の効率化を図り、個人・ペア練習の段階では活動内容を理解させること、活動がスムーズに行われるように工夫して活用したい。最後にも生徒の発表に対してT2が問い直して確認する作業で、生徒を注目させることや学習のまとめの雰囲気作りに役立てたい。

(4) 展開

	学習の流れと主要発問	生徒の学習活動	教師の支援 評価 留意点・ [ T・Tの動き ]	
			T 1	T 2
想起 課題把握 10分	1、あいさつ  2、復習・ウォームアップ ・重要フレーズ ・スラッシュリーディング ・速読 ・シャドウイング  3、学習課題の提示	*元気にあいさつをする  *モデルにならい発話する  ・文字に頼りすぎない ・大きな声で明瞭に ・意味をイメージして	T1:モデルを発話 T2:生徒とともに ・顔を上げて、大きな声で ・元気にあいさつをしているか ・文字に頼りすぎないで ・大きな声で明瞭に ・意味をイメージして やっているか	
課題追究 25分	4、アナザーバージョンの提示 *モデルの類例を聞かせる  5、自分の「一日の生活」の表現を練習する。 個人練習 [* 質問の仕方の練習] ペアでの練習 (1) 復唱 (2) 問答  6、アクティヴィティ *学級全員で互いに質問、 応答をする	*T1,T2の問答を聞き 意味・内容をイメージする 表現になじむ  * 自分の表現を音読する ・音読 / 速読 ・Read & Look Up [*モデルにならい質問の仕方を復唱する] (1)S1:自分の表現をいう S2:主語をYouにして復唱する (2)S1:質問する S2:応答する  * 1人につき1表現について 質問して歩く *聞き取った内容をメモする	PCを示して T2:T1に質問する T1:T2に答える形 で類例を聞かせる T1:活動を説明、 指示する T2:生徒の理解、 活動を援助する [*活動のモデルを示す] [*机間指導、観察、 指導・支援] ・指示に従い積極的に取り組んでいるか ・仲間と協力してすすめているか ・理解度に応じて取り組みの留意点を心がけているか  発表、問答がしっかり行われているか (活動の様子・観察)	
		【A】 ・ハンドアウトに頼りすぎることなく、明瞭に、正確に話している。 ・相手に聞かれた内容に対して適切、正確に回答している。 ・相手を見て、うなづくなど反応を示しながら問答をしている。	【B】 ・ハンドアウトを参考にしながら、相手に伝わる口調、声量で話している。 ・相手に聞かれた内容に合った、回答を返している。 ・ハンドアウトを見ていても、話すときや聞くときは顔を上げるように努めている。	【C】 ・ハンドアウトの活用すべき位置(表現)や意味、発音の仕方を示してやる。 ・問答の取り組み方についてT1,T2が相手になり一度やってから友だちとやらせる。 ・自分ことだけでなく、相手の存在を意識させる。
まとめ 15分	7、発表 自分の「一日の生活」 友だちの「一日の生活」  8、整理・まとめ  9、ふりかえりシート記入 10、あいさつ	(1)自分の「一日の生活」を発表する (2)T1,T2の質問に答える 友だちの「一日の生活」を発表する ・発表された人は、T2の質問に答える ・主語を[その人の名前(He/She)]にして復唱する *モデル(基本表現)を暗唱する  *ふりかえりシートを記入する *元気にあいさつをする	・声量、口調が自然で明瞭か ・表現とその意味を理解しているか  ・3単現の～sに注意する PCを示して ・顔をあげて、ほぼ暗唱できるか ・何も見ないで記入しているか ・元気にあいさつをしているか	